

## 令和2年度 第1学期 終業式

みなさんこんにちは。今日は1学期の終業式です。今年は4月の始業式と入学式が終わった直後から臨時休校に入り5月の中旬まで休みが続きました。昨年に遡れば3月から休校でしたので、約3ヶ月弱、学校を休む日々が続いたこととなります。5月の下旬から分散登校を行い、6月から通常通りの学校が始まったのでした。やっと日常が戻ってきたと喜んだのもつかの間、目標としてきた中体連大会やコンクールが中止となり、思い描いていたような1学期とはなりませんでした。そして、7月4日の大水害と一週間の臨時休校。まだまだ傷は癒えませんが、皆さんとこうして今日1学期の終業式を迎えることができたことは、大変ありがたいことだと思っています。

私は、災害後の学校再開の日に、「今できることに今まで以上に心を込めて取り組もう。それが凜々しい生活である」と話をしました。みなさんはこれまで経験したことのない感染症の拡大や豪雨災害の中にあっても、自分たちが今できることにしっかりと取り組んでくれました。日々の学校生活にしても、学習や部活動にしても随所にみなさんの頑張りを見ることができました。

私は、1日に1回は時間が許す限り授業を見て回るようにしていますが、先生の話真剣に聞いていたり友達と考えを話し合ったり、じっくりと制作や実験に取り組むなどみなさんの授業態度に感心しています。友達と考えを出し合うときはしっかり話し合い、先生の話聞くときは集中するそんな授業風景をよく見ることができました。

部活動では中体連に代わる大会が、野球、サッカー、卓球、バスケット、ソフトテニスの5種目で行われました。いくつかの会場に応援に行きましたが、日頃の練習とは違う試合独特の緊張感の中で真剣に頑張るみなさんの姿を見て胸が熱くなりました。試合に勝ち負けはつきものですが、勝利を目指して努力するその過程こそ意味があるのです。体育的な活動にしても文化的な活動にしても部活動は様々なことをみなさんに教えてくれます。勝つ喜びや負ける悔しさはもちろんですが、審判の方や準備して下さる方がいるから試合ができること、送迎して下さる保護者の方がいらっしゃるから試合や練習試合に行けること。日々熱心に指導して下さる監督の先生やコーチがいらっしゃるからこそ成長できること。そして一緒に励まし合える仲間がいるからこそきつい練習も乗り越えることができることなど、そんな自分以外の人たちの大切さやその人たちに対する感謝の気持ちもきっと部活動は育ててくれるのだと思います。どうか3年生の集大成としての試合を行うことができ本当に良かったです。これから試

合や合同練習会やコンクールがある部活動も悔いが残らないよう全力で取り組んでください。そうして1・2年生のみなさんは3年生の姿を目に焼き付けて新しい一歩を踏み出してください。

さて先日、耕心館に避難されている球磨村の方とお話をする機会がありました。災害当日は水が家の中まで入ってきて、やっとの思いで近くの高台に避難しそこで一晩過ごされたそうです。翌日、避難している人は集まってほしいとのことで別の場所に集まり、そこは屋根こそあったものの、下は土の上にビニールシートが1枚。そこで、また一晩過ごされたそうです。そうして翌日午前10時頃、一中に避難ができるという知らせが入りバスで移動したとのことでした。その方は、避難所生活についての新聞の取材に、「衣食住で困ることはなく感謝しかない。ただ、学校が再開している中で体育館をお借りしているのが生徒さんたちに申し訳がない」と答えていらっしゃいました。このコメントを目にしたとき、自分自身が大変きつい状況で、住み慣れた家も思い出の品もなくされたであろうに。そんな状況でも他人のことを思いやることのできる心の広さや優しさを感じることができました。苦境に立たされても、お互いに相手を思いやる気持ちを持ち続けられるというのは大変素晴らしいと感じました。また、球磨中からの転入生の保護者の方は、一中の生徒さんにとってもよくしていただいて子どもも喜んでいましたとお礼の言葉を戴きました。一中生の優しさが届いたと感じ、とてもうれしくなりました。

昨日、各学級の人権目標が発表されました。どの目標も相手を思いやる気持ちであふれていました。人が成長するということは、自分のことだけではなく、相手のことを温かく思いやれるようになるということです。本年度の生徒会スローガンは「みんなが笑顔で過ごせる学校へ」です。みんなが周りの人のことを思いやれば、このスローガンも、学級の人権目標もきっと達成できるでしょう。

明日から2週間の夏休みに入ります。例年より短いですが、計画的に過ごし、8月24日にまた元気で会いましょう。これでお話を終わります。